

2024年度

履修免除

(全 3 ページ)

問 題

	ページ
民事訴訟法 ……	1
刑事訴訟法 ……	2

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答用紙・下書き用紙は、この冊子の中に折り込んであります。
3. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
4. 解答は指定された範囲に記載すること。「書き終わり」をこえて記載した場合は、採点をしないことがあります。
5. 試験終了後、問題冊子・下書き用紙は持ち帰りなさい。

民事訴訟法

I 以下の各問いについて、それぞれ100字以内で答えなさい。(20点)

- (1) 規範的要件における主要事実は何か。
- (2) 訴えの取下げは、被告が本案について準備書面を提出するなどした後は、被告の同意を得なければ効力を生じないが、その理由は何か。

II Xは、Yに対して、200万円の貸金返還請求の訴え(本件訴え)を提起した。これについて、次の各問いに答えよ(各問いは、独立のものとする)。(80点)

- (1) Xは、本件訴えの提起より前に、Yに対して、同一の貸金を主張した訴えを提起し、すでに全面勝訴の確定判決を得ていた。この場合、本件訴えは適法か。
- (2) Xは、本件訴えの提起より前に、Yからの200万円の売買代金請求の訴えに対して、本件訴えで主張する200万円の債権を自働債権とする相殺を主張し、その訴えは別件として係属中であった。この場合、本件訴えは適法か。
- (3) Xは、本件訴えの提起より前に、Yに対して、500万円の貸金債権のうちの一部であることを明示して300万円の貸金返還請求の訴えを提起し、一部勝訴の確定判決を得ていた。本件訴えがその残部の請求である場合、本件訴えは適法か。

刑事訴訟法

I 以下の(1)(2)について、それぞれ100字以内で答えなさい。(20点)

- (1) 判例は、いかなる根拠に基づいて所持品検査が許される場合があるとしているか、説明しなさい。
- (2) 逮捕前置主義の意義について説明しなさい。

II 以下の【事例】を読み、[問い]に答えなさい。(80点)

【事例】

令和5年4月頃から、K市繁華街にあるナイトクラブRに集まる客の間で大麻の使用が広がっているという噂が広がった。そこで、令和5年4月20日頃から、警察官Pらが大麻取締法違反事件として捜査を行ったところ、Rにひんぱんに出入りしている甲(22歳)が、自宅で大麻を栽培し、Rを拠点にして売りさばいている疑いがあることが判明した。しかし、甲は、警戒心が強く、警察官Pらが甲の行動確認や周辺捜査を行ったが、甲が大麻の取引をしていることを根拠づける証拠を得ることはできなかった。

警察官Pらが引き続き、甲に対する大麻取締法違反被疑事件の捜査を継続していたところ、令和5年6月2日金曜日午前8時頃、K市にあるJ駅構内で、乗客同士がトラブルになり、一方の乗客が他方の乗客を殴って全治1か月の傷害を負わせる事件が発生した(以下、「本件傷害事件」という)。殴った方の乗客は犯行現場から逃走していたが、警察官Pらが捜査をした結果、被疑者としてA(50歳)が浮上した。Aは、K市内に所在するS信用金庫T支店に勤務する正社員で、本件傷害事件発生後も、毎日、S信用金庫T支店に出勤し、午前9時頃から午後7時頃までT支店内で勤務していることが判明した。また、Aに対する捜査の過程で、Aが甲の父親であること、甲はAと同居していることが判明した。警察官Pは、本件傷害事件についてAに対する嫌疑が濃厚になったため、裁判所から、逮捕状の発付を受け、Aを逮捕することとした。

警察官Pらは、令和5年6月12日月曜日午後1時頃、Aの自宅に逮捕状を携行し

て赴いた。呼び鈴に応答してA宅玄関を開けたAの妻Bに対して、警察官Pが逮捕状を示し、「Aを逮捕しに来た。Aがいるかどうか確認させてもらう」と告げて、A宅に立入り、A宅1階を捜索したが、Aを発見できなかったため、引き続きA宅2階に上がり、子ども部屋と思しき居室に立ち入ったところ、甲が在室していた（以下、「甲居室」という）。警察官Pが甲居室内を捜索したところ、甲がクローゼット内で大麻を栽培しているのを発見したため、甲を大麻所持罪の現行犯として逮捕し、大麻を差押えた。

〔問い〕 本事例において警察官Pらが行った捜査は適法か、違法か論じなさい。